

# ウイグル昔話「英雄チン・トゥムール」再論

著者	西脇 隆夫
雑誌名	名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇
巻	48
号	2
ページ	41-52
発行年	2012-01-31
URL	<a href="http://doi.org/10.15012/00000375">http://doi.org/10.15012/00000375</a>

## ウイグル昔話「英雄チン・トゥムール」再論

西 脇 隆 夫

ウイグル人は中国の西北部からカザフスタンなど中央アジアに居住しているテュルク系の民族である。特に中国の新疆ウイグル自治区には700万人以上が住んでいる。古代には遊牧生活を営んでいたが、近世以降はオアシス都市で農業や商業に従事してきた。その文化には東西文明の交流が反映され、中国の人口の大部分を占める漢民族の文化とは異なる特色をそなえている。彼らが伝える昔話には、「魔法の小刀」、「ナスレディン・エペンディの話」や「木馬」など「アラビアン・ナイト」の世界を思わせるような例が少なくない。

その中でも、「英雄アイリ・クルバン」はよく知られた話で、これまでに日本でも数種の翻訳が出されている。例えば、村松一弥編『中国の民話』（毎日新聞社 1972年）所収の「英雄アイリ・クルバン」、新村徹訳『クルバンの魔王たいじ』（文研出版 1975年）、沢山晴三郎訳編『中国の民話』（教養文庫 1976年）所収の「英雄エリ・クルバン」などがある。

この話は、昔話としては長編で内容も面白く、AT301型としても完全なかたちをそなえている。村松一弥教授も、その訳文のコメントとして、次のように述べている。

グリムの「地面の下に住む一寸法師」（クマと人間との間に生まれた若者が、仲間の妨害を切りぬけて、化け物の掌中におちいった娘を解放して結婚する）と同じ型だが、細部のモチーフは、グリムと異なり、インドやチベットの連環説話にあって、小説「西遊記」の素材となったモチーフをたくさん吸収している。本書のさいごに、この物語を置いたのも、これが東西文化のルツボともいふべき中国の民話の諸モチーフの集大成型の話だからだ。

ところが、この昔話のウイグル語原文は各種の昔話集に収められていない。ロシア・旧ソ連で出されたウイグル語版の昔話集にも載せられていないようである。中国の研究者によれば、劉肖蕪氏が土地改革の際に収集したが、原文は失われたか、あるいは漢語で記録したものではないかとのことである。

そこで、筆者は同じくAT301型とされる「チン・トゥムール」という昔話について、これまで以下の論文でふれてきた。

1. ウイグル民話「チン・トゥムール英雄」

「名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）第33巻第2号105～124頁 1997年

2. 軽・吐米爾英雄故事の母題研究

「民間文学論壇」1997年第4期 23～27頁

3. 軽・吐米爾英雄故事的母題研究

「美拉斯」1998年第2期 13～21頁

4. 関于維吾爾族的《軽・鉄木爾英雄》故事

「西北民族研究」1999年第1期 219～232頁

これらの論文では、以下のような点について述べている。

先ず、「英雄チン・トゥムール」及びその他の類話には共通して吸血（妖怪に捕らわれた女性が血を吸われること）と火種（英雄の留守に妹らが火種を消してしまい、妖怪のところにもらいに行くこと）というモチーフがそなわっていることから、一つのグループを形成している、あるいはAT301型の亜型と考えられる。

次に、「英雄アイリ・クルバン」と「英雄チン・トゥムール」には、熊が登場し兄と妹を養うこと、あるいは英雄が熊と人とのあいだに生まれたと語られている。このことから直ちにウイグル族に「熊トーテム」があったと言えるかどうかは、なお検討の余地があるものと思われる。

さらに、「英雄チン・トゥムール」の漢語訳には問題がないかということである。それは整理・翻訳の問題か、ヴァリエーションのためなのか、なお検討すべき課題であるということである。

現在、ウイグルの昔話について少しずつ研究を進めている。その基礎的な作業、資料の収集とその整理などを行いつつ、以前にまとめたテーマについて再検討しようと考え、今回はこれまでの論文で不十分であったことを再び深めたいと思って、以下のような点をまとめたのである。

## § 1 各種テキストと訳文

ウイグル昔話「チン・トゥムール」について、これまでに筆者は以下のような数種類テキストと各種の訳文を見ることができた。

**A1** Čin tömür batur

阿布都克熱木・熱合滿『維吾爾族民間長詩選』（新疆人民出版社 1981年）23～44頁

**A2** Čin tömür batur

《維吾爾民間文学大典》編委会編『維吾爾民間史詩』（新疆人民出版社 2006年）313～336頁

**B1** Čin tömür batur

阿布力米提・薩德克編『維吾爾民間故事集（2）』（新疆人民出版社1 1982年）1～15頁

**B2** Čin tömür batur

『維吾爾民間故事1』（新疆人民出版社 2006年）1～17頁

**B3** Čin tömür batur

『維吾爾民間故事1』（新疆人民出版社 2008年）1～17頁

**A1**、**A2**と**B1**、**B2**、**B3**はウイグル語版テキストであるが、中国で出版されたために、現在でも比較的容易に見ることができる資料と言えよう。これらのテキストについて、ライヒル教授は次のように述べている。

物語が簡単で短くされた版（**B1**を指す一筆者注）も、「維吾爾民間故事選」に見られる。このテキストでは、語り手についてはまったく報告されていない。「維吾爾民間長詩選」のテキスト（**A1**を指す一筆者注）の採集者はアブドゥケリム・ラフマンである。これは詩と散文の愛情長詩すなわちダスタンの作品集に収められている。

**C Der Held Schim Tomur**

W. Rodloff, Proben der Volksliteratur Nordlichen Turkischen Stamme VI, p221~229 1886.

**C**は、この昔話のドイツ語訳であるが、おそらく各種の翻訳の中でも最も古いものと思われる。しかし、採集者、採集地は記されておらず、ウイグル語のテキストも不明である。

**D Récit de Tchîn-Temur-batur**

Zacharko, contes du Turkistan, Le Muzéon t. x x x vi, pp27-37 1923

**D**も、その訳語についての注からウイグル語原文より訳されたことは明らかであるが、出典については記されていない。

**E The Story of Ching Timur Vatu**

R. O. Wingate, children stories from Chinese Turkestan, Bulletin of the School of Oriental Studies 5, pp809-822 1930

**E**はウイグル語原文にその英語訳が付けられているが、きわめて短い資料なのが残念である。

**F1 軽・吐米日英雄**

「民間文学」第51期（1959年7月号）33~38頁

**F2 軽・吐米爾英雄**

劉発俊編『維吾爾族民間故事選』（上海文芸出版社 1980年）362~368頁

**F3 軽・吐米日英雄**

陳慶浩・王秋桂主編『中国民間故事全集 新疆（壹）』（遠流 1989年）28~35頁

**F4 トミール兄妹と七つ頭のお化け**

人民中国編集部編『中国の民話101選』（平凡社 1974年）105~115頁

**F1**, **F2**, **F3**はすべて同じ漢語訳であるが、ライヒル教授が指摘するように、語り手と採集地については記述されていない。塔里木、柯培林による整理とだけ記されているにすぎない。

**F4**は、その日本語訳である。

**G чин томюр и махтум-сула**

м・н・кабиров, уйгурские сказки .1963, pp227~246.

**G**のロシア語訳の採集者と採集地については、ロシア語訳版及び漢語訳版の序文でふれられ、カザフスタンのアルマ・アタ州に居住していたЛ. Макееваから採集された昔話であったと記されている。（кабиров, p26 加畢洛夫, 原序）

そのもとづいたウイグル語原文も不明であり、基本的な構成は同じであるが、中国で出されたウイグル語原文とは異なっている部分が見られる。

例えば、マフトゥムスラを奪ったのは、ジュンガル汗とされている。**A**と**B1**ではカルマック人の王となっている。カルマックとは西部モンゴル人の一部、オイラート部のことであり、

ジュンガル平原を根拠地にしているので、意味としては同じであるが、なぜかカルマックという表現は使われていない。明らかに訳者カピラフがもついたウイグル語原文は**A**や**B1**とは異なっている。

**H1** Tscin Tömür Batur

Karl Reichl, *Marchen aus Sinkiang* 1986. Eugen Diederchs Verlag. pp82～100.

**H2** 「英雄チン・テムュール」

小澤俊夫編『シルクロードの民話1』（ぎょうせい 1990年）108～135頁

**H1**は、**A1**のウイグル語原文からドイツ語に翻訳されたものである。**H2**は、その日本語訳である。この2種類の翻訳文から、**A1**のウイグル族民間長詩の内容を知ることができよう。ただ残念なことに、**H2**ではドイツ語訳書に付けられていた訳者の注と参考文献が載せられていない。このために、ドイツ語の訳者がそれぞれの昔話に対してどのように解釈していたかをうかがうことができないし、この話のウイグル語原文がウイグル族の民間長詩であったことも、読者は知ることができないからである。

**I** 秦鉄木爾勇士 『中国民間故事集成 新疆巻』（中国ISBN中心 2008年）1329～1331頁

**I**は、もう一種類の漢語訳である。それが採集された地域はハミ、語り手は毛拉・布拉克、採集者は阿布力米提・沙迪克と記されていて、実際に語られていた例として重要な資料と思われる。なお、ここで注意すべき点は、**B1**の編者も阿布力米提・薩徳克となっていることである。ただし、いくつか異なる点が見られ、**B1**が**I**のウイグル語原文であるのか、いくつか検討すべき問題が存在する。

この他に、ロシア・旧ソ連では以下のようなウイグル語版、ロシア語版による昔話集が出ていたが、今では見ることが難しいようである。（Алиева, p143～144）

Uyghur el adabiyati toplihoqilar, Moskua, 1925.

Казахские и уйгуриси сказки, Алма -Ата, 1949.

Uyghur həlik чөчәклири, Tashkənt, 1950.

Uyghur həlik чөчәклири, Tashkənt, 1955.

Уйгур чөчәклири, Алма -Ата, 1958.

Уйгур чөчәклири, Алма -Ата, 1960.

Uyghur həlik чөчәклири, Алма -Ата 1968.

## § 2 構造あるいはタイプの問題

この「英雄チン・トゥムール」という昔話の主な内容は、以下のように語られている

イリ地方の王さまには二人の妻がいた。年下の妻が男の子と女の子を産むと、それを妬んだ年上の妻は子どもたちを犬の子と取り替えて湖に捨ててしまう。二人の子は熊に育てられて大

きくなり、兄はチン・トゥムール、妹はメフトゥムスラと名づけられる。

兄は狩りが好きで、その留守に妹は兄の言いつけに背いて火を消してしまい、七つ頭の妖怪である老婆のところに火種をもらいに行く。老婆はチン・トゥムールの留守に訪ねて来ると、妹の血を吸いにやって来るようになる。

兄は妹にわけを聞くと、ひそかに隠れていて、名剣で妖怪の頭を切り落としてしまう。

兄のチン・トゥムールが狩りに出かけると、妹はまた言いつけに背いて、川のほとりで髪をとかす。その長い髪の毛が川に落ちて流れ、それを拾ったサジュンの王子がチン・トゥムールに妹をさし出せと使いをよこす。

英雄チン・トゥムールはそれを断り、数千の兵士と闘って皆殺しにするが、そのすきに王子は妹のメフトゥムスラを奪って逃げ去る。チン・トゥムールは妹を探しに出かけ、ある土地で家畜を飼って莫大な財産を作るが、妹のことを思って泣き、目が見えなくなってしまう。

妹のメフトゥムスラは無理やり王子オズムックの妻にされて、二人の息子を産むが、兄に会いたくて翼を持った馬に乗ってイリ川を越え、召使いに息子たちを川に落とされてももどらず、兄を探しに出かける。ある牧場で子牛の番をしている若者に会い、馬、牛、羊の大きな群れの持ち主が兄だと知り、さらに兄の目が見えないと聞くと、若者にリンゴを持って行かせる。こうして、チン・トゥムールが目の上にリンゴを置くと、見えるようになり、こうして二人は再びいっしょに暮らすようになる。

この話のタイプについては、ライヒル教授がそのドイツ語訳書の注の中で、次のように指摘している。(Reichl, p254)

物語は二つの部分から構成されている。最初の部分は、中傷された女 (Motiv. k2115 動物を生んだという中傷) というモチーフで始まっている。ただし、それは続けられることはなく、そして魔女の追跡とその退治という内容をそなえている。参照：Motiv G11.3 人食いの魔女 + Motiv G451 魔女の力を手に入れた英雄。

第二の部分は、髪の毛を見ることで愛するようになるというモチーフで始まっている。参照：Motiv T11.4.1 (AT516B)。それに加えて、27～28頁を見よ。

つまり、この昔話は次のように二つの部分から構成されている。

前半 AT301 異常誕生+妖怪退治

後半 AT516B 妹の援助

しかし、ライヒル教授は二つの話 (タイプ) がなぜ結びつけられているのか、あるいはその意味については言及されていない。

では、なぜこの昔話が前半と後半という二つの部分によって構成されているのだろうか。その理由として三点が考えられる。

第1に、チン・トゥムールを主人公にした妖怪退治の話とさらわれた妹を英雄が助ける話が別

に語られていて、後に一つに結びつけられたものか。

第2に、それぞれ別に伝えられていた話を結びつけて、チン・トゥムールを主人公にして語られたものか。

第3に、そもそもこの昔話は二つの部分から構成されているのではなくAT301型の変形したものか。

このAT301型の基本的なモチーフは、前述のように「英雄アイリ・クルバン」にすべて含まれている。

AT301型

「英雄アイリ・クルバン」

- |                    |      |
|--------------------|------|
| 1) 英雄の異常な誕生        | 第1回  |
| 2) 仲間あるいは義兄弟を作る    | 第7回  |
| 3) 妖怪を地下に追跡する      | 第9回  |
| 4) 妖怪を殺し、さらわれた娘を救う | 第10回 |
| 5) 仲間が英雄を裏切り娘連れ去る  | 第11回 |
| 6) 巨鳥に乗って地上にもどる    | 第12回 |
| 7) 英雄は仲間を懲らしめ娘と再会  | 第13回 |

これに対して、「英雄チン・トゥムール」には、「異常誕生」のモチーフと妖怪を退治するモチーフしかそなわっていない。「さらわれた娘を救う」というモチーフは、後半の部分でさらわれた妹を助けるという筋に変わっているとも考えられる。しかも、妹はその髪の毛を川に流したためにカルマックの王子に見染められてさらわれることから、AT516b型とされている。

このように、AT301型にないモチーフが付けくわえられることで二つの話、前半と後半の部分で構成されていると言われるが、じつは後半の部分は本来のAT301型にあったモチーフが変形、あるいは拡大したものではないだろうか。そのような変形は偶然ではなく、二つの話の結合というよりも一つの話におけるモチーフの変換とも考えられよう。

また、「英雄チン・トゥムール」では、いくつかのモチーフがAT301型に属する昔話と異なっている。

まず、英雄がさらわれた女を救うモチーフが、兄が妹を救うことに変わっていることである。他の昔話では、夫がさらわれた妻を救うという設定になっている。

次に、主人公は途中で出会った人たちを仲間にするか、あるいは彼らと兄弟になることが多いが、この昔話では馬、鷹、猫、犬、鶏という動物が仲間としての役割をはたして妖怪退治を助けている。わが日本昔話や「桃太郎」の話を思わせる点で注目される。

さらに、地下への転落というモチーフは見られないが、これに代わって異郷へ妹を探しに行き目が見えなくなると語られている。これは、タテの移動から、ヨコの移動に変換されたとも言えよう。

F1の漢語訳は、子どもが子犬と取り替えられ、熊に育てられるという冒頭部分と後半の部分が欠けている。後半部分が欠けているのは、妖怪退治の話という点では、ある意味で分かりやすいが、英雄の出自を語る冒頭の部分はなぜ欠けているのだろうか。その理由としては、漢語訳が

もとづいたウイグル語原文が**A1**とは異なっていたのか、それとも訳者あるいは整理者による削除のためであろうか。各種の訳文は、三種類に分けることができる。

- |                        |              |
|------------------------|--------------|
| 1) 前半部分と後半部分がそなわっているもの | <b>G H</b>   |
| 2) 冒頭の部分だけがないもの        | <b>C D I</b> |
| 3) 冒頭の部分と後半部分を欠くもの     | <b>E F</b>   |

わずか7種の訳文から決定的なことは言えないが、**C, D, I**の例から冒頭の部分を欠いた例話も伝えられていたかもしれない。また、**C, D, G, H, I**の例から、漢語訳に後半部分がないのはおそらく削除、省略されたものと思われる。いずれにしても、漢語訳版がどれだけ信頼できるかは、原文との照合が必要になってくることは言うまでもなからう。

### § 3 翻訳と整理の問題

それでは、ウイグル語原文に対して漢語訳の翻訳と整理にはどのような問題があるのだろうか。各種の翻訳を比較することによって、それは明らかになると思われる。以下では、原文の二か所を例にして比較すると、それぞれの訳文の特徴が明らかになるだろう。

#### 例文1 妖怪とメフトゥムスラの会話

Bir kuni yalmawuz momay šu yol bilän mengip Mähtumsulaning  
ある日に 妖怪 老婆は その 道 で 歩いて メフトゥムスラの  
oyge beriputu. Išik tüwidä turup.  
家に 着いた 戸の 入口に 立っていた  
Čin tömür batur oyda barmu?  
チン トゥムール 英雄は 家に いるか  
Arğimaq eti eğılda barmu?  
駿馬 馬は 馬小屋に いるか  
Misran qiliči qozuqta barmu?  
ミスランの 剣は 柱に あるか  
Alğur burkuti orunida barmu?  
よく捕まえる 鷹は その場所に いるか  
Kap-kap küčügi išiktä barmu?  
よく吠える 子犬は 入口に いるか  
Puš-puš muşugu töşäktä barmu?  
よく鳴く 猫は 布団に いるか



Tah-tah tohusi qondaqta barmu?

餌を探す 鶏は 止まり木に いるか

dāp suraptu.

と 訊ねた

Hičnimidin häwiri bolmiğan Mähtumsula oydin çıqmay

なんの 知らせが なかった メフトゥムスラは 家から 出ずに

turup.

いた

Čin tömür batur šikarğa kätti.

チン トゥムール 英雄は 狩りに 出かけた

Misran qiliči qinida kätti.

ミスランの 剣は さやに 入った

Alğur quşimu qolda kätti.

よく捕える 鷹は 手に 止まった

Kap-kap küčügi yenida kätti.

よく吠える 子犬は その傍に 行った

Puš-puš muşugi toyquğa kätti.

よく鳴く 猫は 眠って いた

Tah-tah tohusi dan izläp kätti.

コーコーと鳴く 鶏は 餌を探していた

däptu.

と言った。

## 訳文 H2 = H1 の日本語訳

ある日、年老いた魔女はこの道をたどって、メヒトゥムスラの家に行ってきました。魔女はドアのところ立って聞きました。

「英雄チン・テムュールは家にいるかね？」

馬は馬小屋の中かね？

ダマスク剣は柱にかかっているかね？

たかはまだいつものところかね？

猟犬はとびらの前に

猫はひもでつながれて、ベッドの上に寝そべって

にわとりは小屋で鳴いているかね？」

何も知らないメヒトゥムスラは、家から出ないでこう言いました。

「英雄チン・テムュールは狩りに出ているわ

ダマスク剣はチン・テムュールがベルトにさしているわ

たかはチン・テミュールの腕に乗って  
獵犬はそばにひかえているわ  
猫はここに繋がれてねむっているし  
にわとりは鳴きながらえさを追いかけているわよ」

訳文 F3 = F1 (漢語訳) の日本語訳

やがて太陽は沈み、大地は黒いとばりにとざされました。すっかり日が沈むと、七つ頭のお化けは、マホトミシュラが道にまいた灰をたどって、家の前までやってきました。けれども、わるがしこい化けものはすぐにはなかに入らず、門の外にたって歌をうたいました。

チン・トミールは家にいますか  
うまやにくり毛の馬がいますか  
部屋のかべには宝刀がかかっていますか  
門のうしろに獵犬がねていませんか  
マホトミシュラはすぐに、歌の聲が、ひるまのおばあさんだとわかりました。そこで、  
チン・トミールはおりません  
くり毛の馬もおりません  
かべには宝刀はかかっていますか  
門のうしろ獵犬もいません  
と答えました。

例文2 英雄と妖怪の闘い

Čin tömür batur argımaq etiğa minip bir beşi qalağan  
チン トゥムール英雄は 駿馬 馬に 乗って 一つ 頭が 残った  
yalmawuz momayning arqisidin qoqlaptu. Mähtumsula  
妖怪 老婆の 後から 追いかけた メフトゥムスラは  
bağlaqlıq kap-kap küçüğini qoyuwetiptu. Şuning bilän  
繋いでいた よく吠える 子犬を 放した それ で  
Čin tömür batur yalmawuzğa yetišiptu. Ular keč  
チン トゥムール 英雄は 妖怪に 追いついた 彼らは 暗く  
kirgičä qattıq elişıptu. Čin tömür baturning kap-kap  
なるまで 激しく 争った チン トゥムール 英雄の よく吠える  
küçügi etip kelip, yalmawuzning paqalçıǵidin čişläp tartıptu.  
犬は 追いかけて 来て 妖怪の すねを 噛んで引っ張った  
Bir azdin keyin yalmawuz momay halsızlinip yeqılıptu.  
しばらく してから 妖怪 老婆は 噛まれて 倒れた

Kap-kap      küçük   yalmawuzni talap oluturuptu. Çin   tömür  
よく吠える   子犬は   妖怪を   噛んで   いた   チン   トゥムール  
batur   yalmawuzning yättinči   bešni elip,   hošal   oyge  
英雄は   妖怪の   七つ目の   頭を   持って   大喜びで   家に  
qaytiptu.  
帰って行った

#### 訳文 H2 = H1 の日本語訳

英雄チン・テミュールは駿馬にまたがり、まだひとつの頭が残っている魔女を追いかけてきました。メヒトゥムスラは、忠実な獵犬を放してやりました。チン・テミュールは魔女に追いつきました。ふたりは日暮れまで、けんめいに戦いました。そこにチン・テミュールの獵犬がほえながらやってきて、魔女のすねに食らいつきました。犬が歯でしっかりとかぶりついているあいだに、チン・テミュールは魔女の七つ目の頭を切り落としました。チン・テミュールは、喜びいさんで家へ帰ってきました。

#### 訳文 F3 = F1 (漢語訳) の日本語訳

チン・トミールはそれをみると、くり毛の馬にまたがり、いなずまのような早さで、追いかけていきました。マホトミシュラが、ししのような獵犬の綱をほどくと、獵犬はまっしぐらに、そのあとを追いかけてきました。

チン・トミールは、ついに化けものにおいつきました。そして、化けものは、頭が一つしか残っていないので、それはもう必死です。昼となく、夜となくたたかいつづけ、そのためにまきあがった砂ぼこりのために、太陽も月も、光を失ったかと思われるほどでした。それでも、勝負がつきません。ちょうどそのとき、勇敢な獵犬がすきをねらって、化けもののくるぶしに咬みつ、化けものをうちたおしてしまいました。チン・トミールはすかさず馬をおどらせて、七つめの首をきりおとしました。化けものはついに死んでしまいました。

英雄チン・トミールは化けものの首をぶらさげて、意気揚々と家に帰ってきました。

わずか二か所の例文を比較しただけであるが、漢語訳 (F1) は、ウイグル語原文とそれほど大きな違いのないことが明らかであろう。漢語訳は、それがもとづいた原文にほぼ忠実に行われていると言えよう。したがって、§3で述べたように、F1の漢語訳は、1) A, Bとは異なるウイグル語版によって訳出されたものか、2) 前半と後半の部分を編者が省略したものと考えられる。

## §4 その他の問題点

### 1. 昔話と叙事詩の関係

西北中国から中央アジアにかけて居住する諸民族において、昔話として語られている話が、一

方では叙事詩、長詩、語り物のかたちでも広く伝えられている例が少なくない。

例えば、キルギス族の「英雄ジョーダルの物語」は、昔話として記録されていると同時に叙事詩としても記録されている。

昔 話 「英雄交奥達爾的故事」カタンスマイル口述

『柯爾克孜族民間故事』（新疆人民出版社 1980年）92～115頁

叙事詩 「交達爾拜希木」アブドケリム・アサンディンの異文

『柯爾克孜族民間長詩集（二）』（新疆人民出版社 1988年）1～133頁

また、カザフ族の「エル・トゥシトゥク」や「コズケルベシ・バヤンスルゥ」なども同じように昔話と叙事詩のかたちで伝えられている。

ウイグル族の場合も叙事詩としてよく知られる「タイールとゾフラ」がやはり昔話のかたちで採集されている。

叙事詩 『塔依爾与佐合拉』（新疆人民出版社 1982年）1～60頁

昔 話 Сказка о Зохра - хан и Таир - паше Тенишев, Уйгурские тексты 1984. Pp127-128.

ウイグル民間文学では、叙事詩はハルク・ダスタン（民間長詩）と言い、長編の英雄叙事詩とは区別されている。「英雄チン・トゥムール」の場合、叙事詩と昔話でも冒頭の部分はほとんど同じ表現で語られ、歌も共通するものが少なくない。ただし、民間長詩として公刊されているテキストは全文が韻文体ではなく、どちらかと言えば歌物語の形式になっていると言えよう。

## 2. 昔話と説話集の関係

古代インドでは、多くの叙事詩とともに多くの説話集が生み出されている。これら説話集の一部が各地に伝わることによって、東アジアにおける説話の流れが形成されることになったのである。例えば、「屍鬼二十五話」はインドからチベットに伝わって、「屍語故事(不思議な死体の話)」となり、さらにモンゴルに伝わって「シディ・キュル（喜地呼爾）」となった。同じように、インドの「パンチャタントラ」はアラビアに伝わって「カリーラとディムナ」となり、「鸚鵡七十話」はペルシャやトルコに伝わって「トゥーティ・ナーメ」となり、さらに中央アジアに伝わってウイグルの「トゥーティ・ナーメ（鸚鵡伝）」になった。

これら説話集の中には、それほど口頭伝承との類話は多くないし、また、民間伝承と思われる動物説話はインドの伝承からの翻訳が少なくないが、昔話との関連で注目されるのは、次のような例である。

「チン・トゥムール」の後半に見られるモチーフ、すなわち川に流された妹の髪の毛によって妹が王に見染められて奪われてしまうことである。このモチーフは、吉原公平訳「シッディ・クール物語」の第23話「赤い子犬の話」で語られている。この話では、ある男の妻が川で沐浴して髪の毛が川に流れてカン（汗）に見られたため、妻は汗の兵士に連れ去られる。

このモチーフは非常に古くから知られ、エジプトのパピルスの中に記されている「二人兄弟」の話の中に見られ、「髪の毛を見て未知の王女を恋する」(Mot T 11.4.1)としてトンプソンのモ

チーフ・インデックスに配列されている。(THOMPSON, volume five p334)

### 3. 今後の課題

今後もお明らかにしなければならない課題としては、以下のようなことが考えられる。

①英雄チン・トゥームルの目が見えなくなること。

同型の昔話では、主人公の英雄は話の中で脚を切られたり、一度死んで蘇生したりすること  
とどう関係するのか？

②英雄に助けられる女性＝メフトゥムスラは、なぜ妹になっているのか？

同じタイプの昔話では、妖怪にさらわれた女性の多くは主人公の妻か、後に妻となっている  
のに対して、妹になっているのは回族の昔話以外にはそれほど多くないようである。

③英雄を助ける者の存在＝援助者が、なぜ鷹，犬，馬，剣になっているのか？ 他の昔話に見  
られるかどうか，なお探す必要があろう。

④七つ頭の妖怪は，なぜ老婆の姿で登場するのか？

ロシアの昔話にしばしば登場するヤガー婆さんなどとの相似あるいは影響も考えるべき課題  
である。

⑤民俗的な事象＝火種，吸血，火を司る＝火を守る者＝シャーマンとしての老婆などについ  
て，どうとらえるか？

### 参考文献

М. М. Алиева, уйгурская сказка Алма - Ата, 1975.

Karl Reichl, Marchen aus Sinkiang, Eugen Diederchs Verlag, 1986.

Stith Thompson, Motif-Index of Folk-Literature, Indiana University Press.

穆・諾・加畢洛夫，沃・夫・沙赫馬托夫編 周彤訳『維吾爾民間故事』天津通俗出版社 1953年

付記 この研究は，2010年度名古屋学院大学外国語学部研究奨励金によって完成することがで  
きた。

2011.10.26